

南ぬ風

Vol.12

2009.7~9

夏号



【南ぬ風インタビュー】 関係資料公開のための首里城博物館の建設を期待します。
琉球大学名誉教授/池宮正治

《沖縄の色・形》 鮮やかさと変化に富んだ紋様が特徴/知花花織



みしきがいっぱい

公園点描

海洋博公園

おきなわ郷土村 御 嶽

「おきなわ郷土村」は琉球王国時代の沖縄の村落を再現しており、ここに紹介する「御嶽（ウタキ）」もその村落を形成する重要施設のひとつとして再現されました。

古くからの村落には、丘の上か山の中腹にあたるところに「御嶽」または「御願所（ウガンジュ）」と呼ばれる聖地がありました。御嶽は、地域の祭祀において中心となる施設で、地域を守護する聖域として現在でも多くの信仰を集めています。

神の鎮座する聖なる場所を「イビ」言い、そこには大きな岩石や樹木などがあって、王国時代には男子禁制とされていました。また、「イビ」の手前は「イビスメー」と呼ばれ、石の香炉や台石が置かれています。



ふえー 南ぬ風

誌名『南ぬ風（ふえーぬかじ）』について
「南ぬ風」は梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信することを意味しています。

C O N T E N T S

南ぬ風インタビュー Vol.5

3

関係資料公開のための首里城博物館の建設を期待します。
琉球大学名誉教授／池宮正治

沖縄の色・形

6

鮮やかさと変化に富んだ紋様が特徴 知花花織
取材協力／知花花織事業協同組合

海洋博公園の管理運営

8

- ・熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 植物のクラフト作り
クラフト作りを通じて植物への関心を高めたい
- ・沖縄美ら海水族館 解説員
海に興味をもってもらうパイプ役でありたい

財団の事業紹介

10

調査研究事業

マンタの繁殖生態調査／イルカの船舶輸送調査／八重岳のカンヒ
ザクラ生育状況調査／海洋文化館収蔵品調査

普及啓発事業

サンゴの卵と幼生観察会／ウミガメ展／沖縄の花・緑コーディネーターの育成／沈金コースター作り体験教室

沖縄の自然 南の島の植物と動物たち

14

シリーズ沖縄の大木⑤ フクギ

シリーズ沖縄の希少動植物⑤ ヒナカンアオイ／アカウミガメ

特集

16

調査研究・普及啓発事業の拠点「総合研究センター」を設置

ニュース&イベント情報(7月～9月)

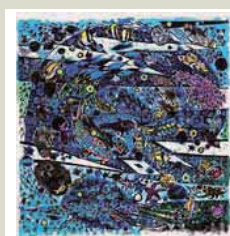
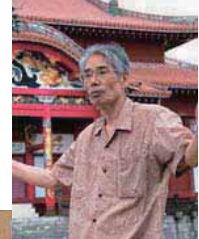
18

総合研究センター、首里城公園管理センター、海洋博公園
管理センターのニュース&イベント情報を紹介

ふしぎがいっぱい公園点描

20

おきなわ郷土村 御嶽(うたき)



表紙について
珊瑚
名嘉睦穂(なかぼくねん)
一九五三年伊是名島生まれ。版画家、造形作家。月桃紙に裏手彩色と呼ばれる技法で制作される作品群は、われわれ現代人が見過ごしてしまいがちな大自然の機微、生きとし生けるものの魂の声を、時に優しく、時に力強く私達に伝えてくれる。

唐衣裳と琉衣裳

——首里城に関わりをもたれるようになったのはいつ頃ですか。最初のきっかけはどのようなことだったのでしょうか？

池宮 首里城の開園前からいろいろな検討委員会に入っていました。1989年に正殿が着手されて、開園に向けて御庭も造られ、正月儀式の再現には国王と王妃の衣裳が必要だということで、中国の南京市雲錦研究所に出かけて反物とデザインを持ち帰り、その反物で”琉装蟒緞”と唐衣裳のそれを作りました。中国では国王が赤地のマントンを着ていると、王妃も同じような生地のもので着ます。当時は王妃が実際に着ていたかは王妃に関する情報が少なく誰も知らない世界でしたね。

琉球国王には唐衣裳のマントンと琉装のマントンの二つがあります。当時はどなたも分かっていなかったと思いますが、尚家の資料などから大体分かるわけです。正月が二つあることもあまり知られていませんでした。元旦と十五日の二つです。これも北京の皇帝と同じで、近世の琉球の国王は、中国の皇帝からもらった唐衣裳のマントンを着て元旦の儀式を行って

いまして、十五日には、いわゆる小正月なんです。そのときは琉装マントンを着て行儀式がありました。首里城には年間を通じていろいろな儀式がありますが、そう

いうときに国王が何を着ていたかが大体分かります。それ以前は資料がなくて、誰も見たことがない世界ですから、赤地マントンを作ったときにはあれこれ言われまし

関係資料公開のための 首里城博物館の建設を 期待します。

首里城の儀礼・儀式、展示物など、開園当初から関わりの深い池宮正治先生に、国王の衣裳や儀式・儀礼などについて語っていただきました。

た。文献にもとづいて進めたつもりですけれどね。

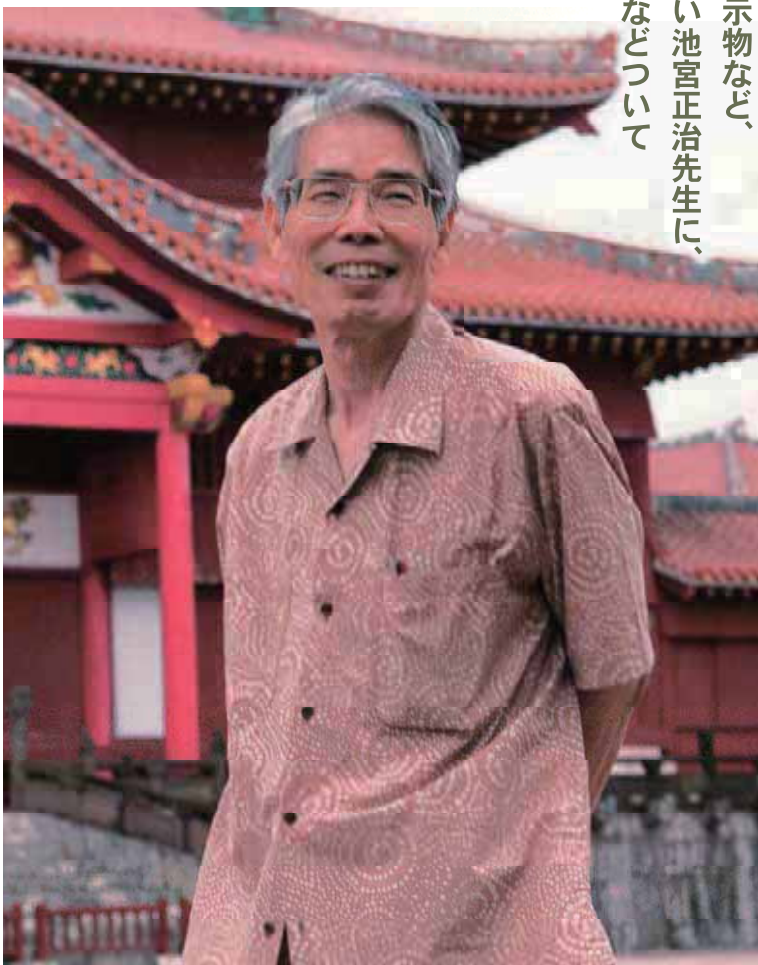
当時、琉球国王の身分というのは中国では郡王クラスとあって、中国の皇帝にとっては嬪殿のレベルでした。そのマントンには金糸で龍のような模様が入っています。ほぼ龍の形で、”リュウイシヨウ”と言ってもかまわないんですが、中国人はこの龍の衣裳をマントンと呼ぶんです。マンは海蛇(うみへび)のことで、蟒(マン)という漢字が使われます。そ

南風 vol.5 Fe-nu-kaji Interview インタビュー

琉球大学名誉教授

池宮 正治

Masaharu Ikemiya



【いけみや まさはる】1940年那覇市生まれ。1964年、早稲田大学第一文学部文学科国文学専修卒業。1967年3月、早稲田大学大学院文学研究科修士課程(日本文学)修了。琉球大学法文学部助手、講師、助教授を経て1983年同学部教授、琉球文学専攻。2006年同大学退官、琉球大学名誉教授。2006年4月～2008年3月「国立劇場おきなわ」常務理事を務める。1996年度伊波普猷賞受賞。県の文化財保護審議会委員や文化庁の文化審議会専門委員の一員として、県や国の基本構想の策定にかかわる。著書に「琉球文学論」「沖縄芸能文学論」「おもろさうし精華抄」「沖縄の遊行芸 チョンドラーとニンブチャー」など多数。

※1.王妃衣裳

明・清時代を通じて衣裳そのものが与えられたという記録はなく、また、王妃衣裳とみなされる衣裳も現存しない。そのため、検討の結果、伊是名島に現存する「伊平屋あむがなし」の衣裳の形態をモデルに、赤地で鳳凰の紋様が刺繍されている緞子の琉装をしている。



(左上)新春の宴 国王王妃出御
(右上)北殿前の国王の拝礼
(左下・右下)首里城祭 冊封儀式

首里城の儀式や儀礼について語る池宮先生

儀式の場でもあった北殿

「いろいろな儀式があったと思いますが、どこでどのような儀式が行われていたのでしょうか。池宮 特に正殿は儀礼の場でして、いろいろな儀式がありました。ただ、首里城は東西南北の使い方としては異例の使い方をしています。どこの国もみんな中国式で

て、北を上にしてるんです。広場があると、天皇は北の方角にいるわけですが、琉球の王様は東にいます。東側から西に向く儀礼をとっています。おそらく琉球独特の発想があるのだと思います。王のことをテイダ、太陽と呼びます。日の出をとて大事に思っていたようです。王は日の出の皇子として、毎朝現れてくるわけですから。王は東から昇る太陽でもあり、その霊力を受けた現人でもあるという、沖縄のユニークな部分ではないかと思えます。未明

に女官と一緒に毎朝、正殿から東に向けて「みおみ拝」というお辞儀をしています。北殿は行政の場として官僚たちの執務に使われていたようです。儀式の場でもあったようですが、かつては広場に向かって中央が開くようになっていて、広場へ降りる階段がありました。一年に一回、この場所を使って「ニヌファウガミ」という、子(ネ)の方角である北の星、北極星を拝む儀式があったようです。ですから、本当はここに正殿があった方が皆さん納得してくれるんですけどね。冊封使がきたときも専らここを使っていたようです。

——現在も新春の宴などで、使っています。そういう事例があることから、沖縄サミットのときも対外的な交流の場として北殿を使っただけでしょうか。

池宮 首脳たちには本当は正殿を使いたかったでしょうね(笑)。ただ、正殿は木造建築物で危険ですからね。警備上の問題もあったのではないかと思います。私たちも心配していました。警備体制はしっかりしていたと思いますが。

——先生は、資料収集委員会の委員としても、最近では「尚育王書」の評価のときにもお越しいただきました。

池宮 尚育は18代国王、琉球最後の

の国王・尚泰の父親ですが、書が上手だったんですよ。若くして亡くなったのですがね。言っておきますが私は鑑定士ではありませんよ(笑)。「尚育王」のときも書道や美術関係の方などと一緒で、大勢でやっています。私からも人を呼んだりしますが、意見を求める立場ではありません。「尚育王書」も関係者からの寄贈でしたが、首里城にはいろいろな方々が貴重なものを持ってきたりします。よくぞ戦火を逃れて、毎回感動しています。ただ、新しく出てくるものはほとんど本土からのものが多いです。

——最後に、これからの首里城へのご要望があればお聞きしたいのですが。

池宮 首里城は物持ちです。早くこれを公開して、みんなが見ることができるような首里城博物館の建設を期待します。いろいろな方の恩恵を被っていることもありますが、その恩を返さないといいない。還元しなきゃいけないと思います。

(平成二十一年六月十二日、首里城公園管理センターにて)

尚育王書 五言対句
筆跡の意味の概要は「天下泰平の象徴である鳳凰が現れ、国王の象徴の龍が天に昇っていく」という国王自身が自分の治世の安泰を詠んでいる内容である。



三跪九叩頭の礼

——先生は、新春の宴の「朝拝御規式」や冊封使の歓待の儀式、首里城祭の衣裳とかイベントの監修もされたとか伺っています。池宮 立ち上げのときに関わっただけです。しかし、あれを本当にやるとなると大変なんです。「朝拝御規式」の際の礼も、ひよっとすると中国式の礼をしていた可能性もあるわけです。実は礼拝の仕方いろいろあって、首里城では簡略化した礼を行っています。正式な儀礼となると、手と額を地面に付けて立ったり座ったりする三

れでも龍衣の気分があったのではと思います。トンというのは緞子のことで、マントンは一番上に着る上着です。緞子に金糸がたくさん入った大変重いものです。下には薄地の絹のようなものと袴をはいていたようです。これは身分表示でもありまして、歴代の皇帝によってデザインも少しずつ変わっています。リュウウイショウ(琉衣裳)“の場合は龍だけが出てくるんですが、マントンの場合は龍が海から出てくるような感じになっています。首里城での最初の仕事というのはこれでした。



琉球国王の衣裳

尚家資料の唐衣裳の特徴は、龍の紋様に五つの爪があること。また、龍のほかに吉祥紋様である峻山・瑞雲・コウモリなども盛り込まれている。この衣裳は首里城でのイベント用に製作されたもの。

跪九叩頭の礼というのがありますが、これは難しいですからね。とても覚えられないものではありません(笑)。それで、簡略化した礼で座ってウートーするものもありますが、立ち上がって合掌する礼、タチミハイという簡単な礼になっています。合掌のときには「ワンフンサーイ」という掛け声を出しています。「ばんばんざい」という意味ですが、家臣の国王に対する「いつまでもお元気で」という

思いが込められています。三跪九叩頭もできなくはないのですが、それをやるとなると、首里城さんも覚悟を決めて何ヶ月も前からトレーニングをしなければなりませんし、人集めの問題もあります。それで、全体的に正月の雰囲気が出ればいいのではないかといいことになりました。正月の儀式のたびに「本当は違うんじゃないか」と言われたりしています(笑)。

——首里城としては、あくまでもイベントで全体の雰囲気や衣裳を見てもらえればいいのでしょうか？

池宮 それでいいと思います。歴史的な風致を厳密に再現するという哲学を持っては話は別です。王府には男の儀礼、女の儀礼があって、国王は男が両方に行けるんです。首里城内にはいくつかの女性ゾーンがありますが、そこに行ったり来たりできるのは王しかいなかった。また、表の儀礼は全て男の儀礼ですから、それに女の人が出ることはありませんでした。冊封使が来て接待することもありません。そういうことを分かってもらえばいいわけです。ですから、「朝拝に王妃は出なかった」というような話をされる方はちょっと上級な方なんです。ただ、「本当」を求め過ぎると全てがダメになってしまう。そういうことを踏まえてやればいいわけです。

——儀礼に関する文献などはあるのでしょうか？

池宮 いろいろあります。沖縄にも残っています。ただ、戦争で無くなったり持ち出されたものもあります。尚家が東京に持って行ってからうじて残ったものもありますが、そんなに多くはありません。尚家には王冠や書物はかなり残されていて、僕らが「尚家文書」と言っているものですが、「よ



知花織の歴史は古く、伝統行事のウステーク（臼太鼓）やウマハラー（馬乗り）

知花織の歴史は古く、伝統行事のウステーク（臼太鼓）やウマハラー（馬乗り）競争）などに欠かせないものであった。戦後長い間、途絶えていたが、地域文化の見直しのなかで関係者の努力によって平成十二年に見事復活。その独特の風合いが注目を集めている。

取材協力：知花織事業協同組合

沖縄の色・形

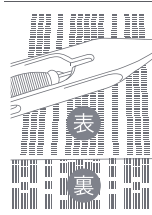
と変化に富んだ
紋様が特徴

知花織

ちばな はな おり

経糸を浮かせた経浮花織

知花織の歴史は、十五世紀から十六世紀ごろの琉球王国時代まで遡り、その技術はインドネシアやインドなど南方から伝来したといわれている。しかし、知花地区では「ハナウイ（花織）」登川地域では



「ウキウイ（浮織）」と呼ばれ、「知花織」という呼称はなかったという。花織は沖縄戦の始まる前までは盛んに織られていたが、戦後は長い間、その技術の継承が途絶え、「知花織」は一般的に読谷山花織と同じものと考えられていた。知花織事業協同組合の小橋川順市理事長によると、「知花織」として確認されたのは昭和四十年ごろだという。

沖縄の織物は平織の緋織物と組織織の花織の二種類に大別されるという。花織は色糸を浮かして模様をつくる紋織物のことで、読谷山花織は緯糸が浮いているが、知花織は経糸が浮いているのが特徴である。「大胆にして繊細」「華麗で素朴」など、それぞれ相反する言葉でその美しさが表現されている。

用途によって使う糸も工夫

知花織の素材は昔は木綿、芭蕉、羊毛、絹などの天然繊維が使われていたが、今は木綿を使っている。木綿は知花や登川などで昭和初期ごろまで栽培されていたが、今はどこにも栽培されておらず購入している。

花織衣装では経糸、緯糸ともに木綿の糸が使われるのがほとんどだが、かつては経糸に木綿、地の緯糸に芭蕉を

「点ハナ」と「飛ハナ」



知花織の特徴は何と言っても経糸の織りの技法である。他の織物は経糸を一回タテ巻きするが、経糸を浮かす知花織の場合には、二重千切りになっており、それを二回やらなければならぬ。地緯糸に糸を通しそれを地の部分にする。手前のもう一つの糸は模様になるもので、紋緯糸に糸を通すことになる。この技法は他にはないものである。



経糸と緯糸を駆使し、フクギで染めた鮮やかな布を織り込む

り、他の人よりも綺麗なものを着てもらうことを競っていました。また、手織りの花織を贈られた恋人や夫もそれを自慢していたようです」と話す。

木綿の染料

には琉球藍のほか、フクギやグルンなど地元のものを使っている。ただ、琉球藍は高価なため、物によってはインディゴビュアを使用しているものもあるという。藍で染めた紺地に白や赤の模様は昔から受け継がれてきた色合いであるが、最近では他の色も使われることが多くなってきたという。

いる。もちろん、知花織には特徴的な模様の単位図というのがある。模様の設計図である。例えば、刀の形を图案化したカマシキ、瓦を敷いた形を图案化したシチガラ、巻き板を图案化したマチチャーなど。経糸の幾何学的な模様の図が幾通りもあるが、その模様の配列や構成は自由だという。

こうして織られた

知花織はドウジン（胴衣、ハカマ（袴）、ワタジン（綿衣、ウツチャキ（袖無羽織）、テサージ（手巾）、ズキン（頭巾）、カカン（下裳）などになる。



左：理事兼指導員の神田尚美さん
右：副理事長兼技術指導員の伊波順子さん

すっかり教えています」と副理事長の伊波順子さん。

同組合がスタートしてから

今年で十年になるが、その間に五十人の後継者を育成するなど着実に実績を挙げている。また、工芸フェアの開催、本土各地での展示即売会の開催などの事業展開も行っており、沖縄市の伝統文化の継承、産業振興の観点から工芸館建設も期待されている。

伊波さんは「消費者ニーズに応じていろいろな商品を生産していきたい。織物が売れてこそ事業の継続も可能です。これからも消費者の皆さんに満足していただけるものを作っていきたい」と抱負を語ってくれた。

の知花織の伝統を



上：ワタジン（綿衣）
中：ドウジン（胴衣）
下：服地を使った小物類



クラフト作りを通じて 植物への関心を高めたい

一年中楽しめるクラフト作り

懐かしい虫カゴやウマの他に、「えっ、こんなもので作れるの」というような楽しい作品がいっぱい。熱帯、亜熱帯都市緑化植物園にある植物管理センター1Fには、沖縄の植物を使った「植物クラフト作り」「コーナー」があります。

「植物クラフト作り」「コーナー」では、毎月2種類のクラフトが工作できるようなっています。以前は1種類だったのが、お客様から「少し難しいものにも



クラフト作りを楽しむ子どもたち

チャレンジしたい」という要望をいただいたので、その様な声にも応えられるよう昨年より簡単なものとより難しいものの2種類にして、子供から大人までが楽しめるようになりま。作るものは季節に応じて毎月変わります。例えば、1月はカレンダー、6月の梅雨時期にはカタツムリ、12月はクリスマスツリーや正月飾りなどです。

植物のクラフト作りは、主にインフォメーション担当の2人で対応していますが、忙しいときには、図書担当、実験室担当、事務担当職員の応援を頼んだりしています。



アダン葉でカタツムリづくり



松ぼっくりを使った人気のクリスマスツリー



材料は公園内の廃材

クラフトの材料は公園内で調達。公園内で剪定した植物の廃材を利用して。また、そのままでは使えないので加工します。一番使用量の多いアダンの葉は、使用する一ヶ月前から集め、適度な長さの葉を選び、トゲを取り、10分程度蒸して自然乾燥させ、さらに乾燥した葉をしいて作ります。「ゆがいたり、蒸したり、加工しやすいようにいろいろ試しています。最近、海水が良いという話を聞いて試してみましたが、なかなか持ちが良いみたいですよ」と上地さん。



木の実も落ちてくるものを拾って使います。春はハカマカズラ、夏はハスノハギリ、秋はドングリ、冬はコガネノウゼンなどですが、木の実は四季の変化がわかる楽しさがあります。この他、押し花用の花も園内で剪定されたものを使います。

作り方は昔から沖縄に伝わっているもので、主に本などを見て学びますが、時には詳しい人を訪ねて聞いたり習ったりすることもあります。もちろん、コースターなど海洋博公園ならではのオリジナルの作品もあります。人気な



いろんな作品がいっぱいの展示コーナー

植物のクラフト作り

●8:30～17:00(5月以降は19:00まで)
●10名以上は要予約



のはクリスマスツリーやリースなど。お土産品屋さんでハブグラーを見て、「ここで作れるんだ」と言って挑戦する人もいたりとか。また、虫カゴなどは、お孫さんと来られた年輩の方が「昔、作ったことがある」とお孫さんと一緒に作って作られる微笑ましい姿も見られます。

いつもいい素材はないかと公園内を歩いているという上地洋子さん

海に興味をもってもらおう パイプ役でありたい

沖縄美ら海水族館 解説員

よりよい解説を目指して

海洋博公園の人気スポットといえば、やはり「沖縄美ら海水族館」。館内には、様々な解説プログラムがあり、「イノリの生き物たち(タッチプール)」「サンゴの海」「熱帯魚の海」「黒潮の海」「わくわくアクアラボ」などで、沖縄の海のことや



海に興味を持ってもらうきっかけになればうれしいと語る村田恵さん



「熱帯魚の海」を解説している様子

生き物たちの解説を行っているのが解説員の皆さんです。現在スタッフは13名。サンゴ礁系と黒潮系に分かれ、サンゴ礁系は主にタッチプールや熱帯魚の海、黒潮系は黒潮の海や黒潮探検などで解説を行っています。担当する解説プログラムはその日のシフトによって異なりますが、基本的に1日数回、それぞれ5分～15分程度です。ただし、お客さまの反応によって予定よりも長くなったりすることがあるとい。よく通る声、メリハリのきいた解説を行うために、常にトレーニングを行っているとのこと。また、先輩方の説明や対応の仕方を見学したり、お客さまの反応を見ながら、自分なりに解説のアレンジを考えているとい。『デビューする前はもろもろ、その後も、先輩方が『ここは違ふよ』と注意してくれま。後輩に『でも言葉遣いが違うと注意したりしますね』と、解説を始めて5年目になるという村田恵さん。

更に、話し方については、専門の講師から言葉遣いや言い回しについての指導を受けています。また、月1回スタップ全員が集まり、講師の指導のもと「ウォイストレーニング」を行っています。腹筋や背筋を鍛えたり、顔の表情



左上：サンゴの海 右上：タッチプール 左下：黒潮の海 右下：アクアラボ

楽しんで知ってもらおう

解説に必要なサンゴや魚類の知識については、先輩に教えてもらったり、自分で調べたりしているとのこと。更に個人の勉強次第で、解らないことは飼育係に聞いたりしています。また、飼育係や研究者の方に講義をしてもらうなどし、新しい情報や知識の習得にも努めています。

解説員が一番心掛けていることは、基本ですが、笑顔で接し、お客さまに不快感を与えないこと。例えば、タッチプールなどでは、「水から生き物を出さないでください」と注意することがあるそうですが、そういう場合の注意の仕方、言葉遣いに気をつけているとい。基本ですが、笑顔で接し、お客さまに不快感を与えないこと。例えば、タッチプールなどでは、「水から生き物を出さないでください」と注意することがあるそうですが、そういう場合の注意の仕方、言葉遣いに気をつけているとい。

館内解説プログラム			
① イノリの生き物たち (タッチプール)	水槽解説/常時 飼育係の解説/10:00 14:00	④ 美ら海シアター (ハイビジョン映像)	
		10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:30 ※は夏期(3月～9月)の実施	
		⑤ 黒潮の海	
② サンゴの海	水槽解説 10:30 12:30 14:30	水槽解説/11:30 13:30 絵画解説/15:00 17:00	
③ 熱帯魚の海	水槽解説/11:00 絵画解説/13:00 水槽解説/15:30	⑥ わくわくアクアラボ	飼育員の解説/11:00 14:00

マンタの繁殖生態調査

オニイトマキエイ(通称マンタ)は、成長すると体の幅(体盤幅)が6m、体重1360kg以上となるトビエイ科に属するエイ類最大種です。世界中の熱帯・温帯海域に生息し、主に動物プランクトンや小魚など小さな生物をエサとしています。比較的浅い沿岸域にも姿を現すことからダイビング愛好者にも人気がありますが、その生態はいま



今年6月で1才になった赤ちゃんマンタ(写真中央上)

多くの謎に包まれ、特に繁殖に関する知見はごくわずかなものです。現在、当館(黒潮の海)大水槽には、4尾のマンタ(オス2尾、メス2尾)と2008年に誕生した仔マンタ(オス1尾)を飼育展示中です。父マンタは、今から約17年前の1992年に、母マンタは約11年前の1998年に沖縄県内の定置網から水族館へつぎまされた。捕獲時の体盤幅は、父マンタが175cm、母マンタが200cmでしたが、交尾のあった2006年には、それぞれ360cm、420cmにまで成長していました。

マンタの交尾は、オスがメスの胸ビレに噛みついて後、腹合わせの体位となり交尾するというもので、小笠原諸島で観察された野生のマンタや同じトビエイ科のマダラトビエイやウシナトビエイとほぼ同様の行動でした。

交尾後の母マンタは、約1年の妊娠期間を経て2007年6月、1尾の赤ちゃんを出産しました。赤ちゃんは、体盤幅192cm、体重68kgのメスで、生まれる際、胸ビレを背側に丸め、尾の方から産み出されました。残念ながらこの赤ちゃんは、誕生直後より同居のオスマンタに激しい追尾を受け5日後に死亡しました。しかし、母マンタはこの出産直

後に再び交尾をし、翌年の2008年6月、体盤幅183cm、体重約60kgのオスの赤ちゃんを出産しました。この2番目の赤ちゃんは、誕生後すぐに水族館近くの海上生質へ移動し、単独で飼育を行いました。その結果、誕生1週間後には餌を食べ始め、10ヶ月後移動しました。この間、赤ちゃんは体盤幅260cm、体重160kgにまで成長していました。写真

今回の一連の繁殖行動の観察により、これまで推測しかかったマンタの成熟時の大きさや妊娠期間、また一腹の仔魚数などが明らかとなりました。1978年にマンタの飼育を開始して以来、30年余りにわたって取り組んできた「マンタの繁殖」に一定の成果が得られたわけです。しかし、その生態のすべてが明らかになっただけではありません。今後も赤ちゃんや親マンタの飼育をとおして、これらの解明に向けた取り組みを行っていき、と思います。(※)

イルカの船舶輸送調査

動物の輸送は、飼育展示・繁殖と研究・野生動物の保護と治療等を行う際に、必ず発生する作業です。

輸送の際には、自動車・鉄道・船舶・航空機を使用することがありますが、



輸送用コンテナに収容されたバンドウイルカ

査結果を踏まえ、対応策及び管理方法を提案し、本部町と協働でこの観光資源を守っていき、と考えています。

海洋文化館収蔵品調査



タヒチの儀礼用ダブルカヌー



聞き取り調査実施風景

海洋文化館には、1975年に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の際にアジア・南太平洋地域などから集め

ここでは、平成21年2月に行われたバンドウイルカ2頭の船舶輸送について紹介します。

輸送は、和歌山県太地町・大阪南港までが陸路、大阪南港・沖縄安謝港までが海路、沖縄安謝港・海洋博公園までが陸路で、輸送に使用した船舶は9、813トンの大形貨物船です。イルカを収容したコンテナをトラックの荷台に乗せ、車両ごと乗船しました。水中で常に浮力を受けているイルカを長時間輸送する際の注意点は、自重による圧迫の軽減、空気にさらされることによる体表の乾燥や体温の上昇です。船舶輸送は、船内に大量の水を積み込むことが可能で、コンテナ内の換水も行うことができます。また、貨物室への出入りが自由なため、イルカの傍らに無人状態にすることなく、異常が認められた場合には、即座に対応することができると等、航空機輸送には無い利点があります。輸送中は、イルカの健康状態を把握するため、1時間毎に心拍数と呼吸数

られたカメラや民具などが多数展示されています。

当財団では海洋文化館の展示品の管理及び展示解説の充実を図るため、平成20年度より海洋文化館所蔵展示物の貴重性及び仕様等について調査を開始しています。

海洋文化館の大形展示物である「タヒチの儀礼用ダブルカヌー」に関する調査として、製造場所となったタヒチのタウティラ村で現地調査を行いました。本調査では、村の浜辺で製造されたタヒチの儀礼用ダブルカヌーは、製作途中海に浮かべカヌーの機能性を確認しながら復元された本格的なものである事が明らかになりました。

タヒチの儀礼用ダブルカヌーの材質や構造については、現地でも数少ないダブルカヌー製造経験者から聞き取り調査を行い、木材名や板の接合方法の特定など一定の成果を得る事が出来ました。また、タヒチの儀礼用ダブルカヌーの復元にあつた人物がまた命門である事も明らかとなっており、今後継続して調査を行う事でタヒチの儀礼用ダブルカヌーに関する新たな情報を得られる可能性が高まりました。

今後も財団では展示品及び収蔵庫内の資料に関する調査を進め、得られた研究成果を展示品の保存・維持管理に役立てていく他、ガイドツアーや音声ガイドシステムに積極的に反映させ海洋文化館の利用促進につながるよう努力していき、と思っています。



ガンマー線樹木腐朽診断機による調査状況

八重岳のカンヒザクラ生育状況調査

本部町の八重岳には麓から山頂までの林道沿いに約1,500本のカンヒザクラが植栽され、開花時期の1月から2月には見事な桜並木がみられます。この時期本部町では日本一早い桜祭りを開催し、20万人もの観光客

を計測したほか、輸送中の生理値の変化を確認するため、採血も実施しました。輸送時間は、イルカ取り上げから南港出港まで9時間、安謝港出港まで36時間、プール搬入まで2時間、計47時間を要しました。今後、今回の輸送で得られた各種データを分析し、輸送資材の改良と、輸送技術の向上に努めていきたいと思います。

が訪れる観光名所となっています。しかし、植栽から50年が経過し、樹勢の衰えや台風による倒木、樹木の生長による道路空間への侵入等、様々な問題が生じています。そこで当財団では八重岳のカンヒザクラの現状を把握し、今後の維持管理の方針を検討する資料とするため、平成19年度に毎木調査、平成20年度には樹木腐朽診断を行いました。毎木調査では、植栽された各樹木の樹高や幹周などの測定、樹勢や枝葉の状態、幹の様子や傷の有無など観察によるカルテづくりを行いました。特に樹勢は4段階に分けて評価し、その結果、総調査本数1,039本の内「良い」が580本、「普通」300本、「少し悪い」117本、「悪い」が42本でした。樹木腐朽診断では、内部腐朽50%以上の樹木が19本、40~50%が30本、20~40%が44本、1~20%が23本認められ、37本には内部腐朽がありませんでした。通常の診断では、内部腐朽が50%を超えると倒木の危険度が高いとされ、伐採の対象となります。毎木調査の結果、樹勢が「悪い」42本と、腐朽診断で50%以上腐朽している19本は今後伐採を含めた対処の検討が必要です。花の少ない冬期にたくさんの人々を楽しませてくれる八重岳のカンヒザクラは、本部町だけではなく沖縄県の財産ともいえます。財団では、今回の調



図1. 観察会の様子

サンゴの卵と幼生観察会

観察会の開催

沖縄美ら海水族館では、飼育水槽で産卵が起った3日後から10日間、「サンゴの卵と幼生観察会」を行っています(図1)。

飼育水槽内で放卵したサンゴの卵や幼生を、小さな水槽に移して展示する(図1)。

ることで、その小ささや泳ぐ様子を直接観察できるようにになっています。また、大型ディスプレイに実体顕微鏡をつなぎ、卵や幼生を拡大して映し出すことによって、卵や幼生の細部を観察できるように工夫しています。さらに、サンゴについての一般的な解説パネルや成長したサンゴの骨格などの展示も同時に行っています。産卵時期に開催していることもあって、幼生を熱心に観察する方々が多く、サンゴに関する質問もたくさん寄せられます。1mmにも満たない幼生一匹が、大きなサンゴに成長することを説明すると、とても驚かれます。また、サンゴについて理解を深めてもらおうと、「サンゴはどうぶつ」下敷き(図2)を作成し、観察された方々に配布しています。この観察会を通して、サンゴの卵や幼生を身近に感じ、サンゴという不思議な動物の生態と、サンゴ礁環境における役割などを伝えたいと考えています。

サンゴの産卵

サンゴは海底に固着した生活をおくっています。そのためまるで植物の



図2. “サンゴはどうぶつ”下敷き

ウミガメ展



図3. サンゴのバンドル放出(写真中央の丸いもの、直径約1mm)

海洋博公園ウミガメ館では、ウミガメを通して沖縄の海や自然について興味を持っていただくよう、毎年7月から8月にかけて「ウミガメ展」を開催しています。

沖縄に生息するウミガメの種類をはじめ、生理・生態に関する解説や、当財団が実施している「ウミガメの産卵調査」や「標識放流調査」等の調査結果をパネルで紹介しています。

また、産卵・ふ化、仔ガメの正の走光性(ふ化直後、光に向かって歩み出す

こと)等に関する映像展示や、全身骨格標本の展示のほか、ウミガメのことを楽しく学べるようウミガメクイズも行い、普及啓発に役立てています。



ウミガメ展の様子

の高い人材を育成していくことが必要だと考えております。そのようなことから、当財団では、平成16年度から「沖縄の花・緑コーディネーター研修」等を開催し、各地域で



沖縄の花・緑コーディネーター研修状況



緑化用苗木の生産状況

沖縄の花・緑コーディネーターの育成

近年、各地で花と緑あふれる潤いある街づくりが実践され、花と緑に対する関心がこれまで以上に高まっています。このような中、花と緑あふれる潤いある街づくりを推進するために、地域の方々が自ら花と緑の街づくりに参画することが重要であり、そのためには地域の人々のリーダーとして緑化意識

沈金コースター作り体験教室

首里城公園には、尾張徳川家の琉球楽器や、正殿二階の国王のお酒振舞い道具の復元で、沈金で彫った楽器や道具の製作がたくさんあるため、往時の琉球沈金の技法の技術復元に取り組んできました。内容は様々な沈金漆器の事例調査を行い、県内の沈金を得意とする若手漆作家に琉球沈金の彫り方を練習してもらい、道具・楽器の復元



製作風景

にその成果を活かしています。この成果を踏まえて一般の方を対象に沈金でコースターに模様を彫ろうという取り組みを平成19・20年に行いました。参加者は、生の漆を初めてみる方も多く、沈金という技法を知らない方も多くいました。内容は、10cm四方の漆の手に模様をカーボン紙で写し、彫刻刀で模様を彫り、刻線に漆をすり込み、金泥を塗りこみます。少し乾かして余分な金泥をふき取ると綺麗な沈金のコースターが出来上がります。現在、観光施設などでも様々な体験教室が実施されていますが、漆に関する体験教室はほとんど無いようです。漆で塗られた首里城で今後とも定期的に漆に関する普及啓発のため、沈金コースター作り体験教室を行っていくように思っています。

沖縄の自然

Nature of Okinawa

南の島の
植物と動物たち

シリーズ 沖縄の希少動植物 ⑤ フクギ

沖縄県国頭郡金武町には、「金武観音寺」のフクギと称されるフクギの巨木がある。フクギはオトギリソウ科の常緑高木で、樹幹はまっすぐに育ち、沖縄の樹種ではあまり見られない円錐形の美しい樹形になる。根は直根の深根性で強風に強く、葉は肉厚で水分を多く含む燃えにくい事から防風、防火の効果が高く、沖縄では古くから屋敷林として利用され、暴風や火災等から人々を守ってきた。また、樹皮からは黄色の染料が取れ、琉球織物の染料として利用される。

金武観音寺のフクギは推定樹齢約350年、

胸高周囲28m、樹高12m（金武町教育委員会、県内のフクギの中では最大級、最高樹齢の巨木で、金武町の天然記念物に指定されている。重量感のある太い幹が直立するフクギの姿は、雄大な風格を備えており、寺院と共に歩んできた長い年月を感じさせる。

この寺は16世紀に創建された歴史ある寺院で、その境内はフクギの他、アカギ、クワノハエノキ等の巨木が立ち並び、沖縄の原風景を彷彿とさせる空間である。寺院周辺は米軍基地に面した住宅街であり、境内は辛うじて開発の手から逃れた貴重な緑地で、夏になると虫取り網をもって走り回る子供の姿が見られる。先人より受け継いだ「金武観音寺のフクギ」をこれからも大切に育んでいきたいものである。

和名：フクギ
科名：オトギリソウ科
学名：Garcinia subelliptica
方言名：フクジ

シリーズ 沖縄の希少動植物 ⑤

植物 ハート形の葉と小さな花が特徴 ヒナカンアオイ

本種は石灰岩質の林床に生育する常緑の多年草植物で、沖縄島の固有種です。

黄色の花は大きさ7mmととても小さく、根元に近いところに咲くのが特徴です。葉は花を覆うよう

に立ち上がって生えており、深緑色で毛がなく、長さ5〜6cmくらいのハート形です。小さな花の中には、12個の雄しべと6個の雌しべがあります。

もともと自生地が限られていたのに加え、園芸用の採集などによって近年個体数が激減し、現在では極少数確認されているだけです。

和名：ヒナカンアオイ
科名：ウラボシ科
学名：Asarum okinawensis
レッドデータカテゴリー：絶滅危惧ⅠA類（沖縄県）、絶滅危惧ⅠA類（環境省）



動物 産卵場所となっている南西諸島 アカウミガメ

アカウミガメは、沖縄県や環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少生物です。

世界中の温暖な海域に生息し、日本では、北海道南部を含む、沿岸水域のほぼ全域に見られ、甲長



和名：アカウミガメ
科名：ウミガメ科
学名：Caretta caretta
方言名：アカガミー
レッドデータカテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類（沖縄県）、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）

95cmに達する大型の種類です。

北太平洋における、アカウミガメの産卵は、日本以外では確認されておらず、その半数は、沖縄県を含む南西諸島で確認されています。県内におけるアカウミガメの産卵環境の保全をおこなうことは、本種の保全を考える上で、極めて重要といえます。

特集

(財)海洋博覧会記念公園管理財団に新しい施設が誕生！
調査研究・普及啓発事業の拠点

「総合研究センター」を設置

(財)海洋博覧会記念公園管理財団では、調査研究事業や普及啓発事業、公園の管理運営等を通じて培ってきた知識や技術を結集し、環境問題や産業振興、公園機能の向上等に関する調査研究や普及啓発事業をさらに拡充、推進するために、また、社会貢献を果たすために、これらの事業の拠点となる総合研究センターを設置しました。

産業振興への寄与

有用な海生生物の繁殖・育成技術の開発、在来動植物の利用開発や熱帯果樹等有用植物の肥培管理技術の確立、観光資源の情報集積・活用により産業振興に寄与します。

目標

公園機能の向上

公園利用者ニーズの把握や満足度の向上、効率的・効果的な管理運営に関する調査、技術開発等により、魅力ある緑地空間を提供します。またレクリエーションや環境学習、地域連携など多様なニーズに対応した公園の機能向上を図ります。

総合研究センターの目標

環境問題への対応

豊かな自然環境や多様な生態系を維持するため、サンゴ・ウミガメ等の海洋生物やラン類等希少植物の保護・育成、環境緑化等を推進し、生物多様性の保全、地球温暖化等の環境問題に対応します。

研究施設の紹介

視聴覚室

講習会等に利用される、収容人数80名の多目的ホールです。



熱帯植物試験圃場

亜熱帯性植物に関する調査研究において収集、導入したラン類、熱帯・亜熱帯性植物、希少植物等の育成管理を行います。



レントゲン室

CTスキャナーが設置されており、主に大型動物の健康管理、そしてサメ・エイ類などの大型魚類の研究等に用いられています。標本を解剖することなく、内部構造を把握できる事で、研究者の注目を集めている機器です。



研究室

海洋生物に関する研究を行う場所です。実体顕微鏡から電子顕微鏡(SEM)等各種顕微鏡類や濡れたものも扱えるウェットラボも備えた部屋があります。ここには生体や標本の観察、卵や幼生の観察、血液成分の検査、それに組織の中から遺伝子を抽出する機器なども揃っています。



標本室

沖縄の周辺に分布する貴重な生物のサンプルを、標本として保管しています。これらの標本、全ての個体に番号が与えられ、コンピューターで管理されています。



事業内容／調査研究事業

1. 動物に関する調査研究・技術開発

- サンゴ礁の生物多様性、人工繁殖に関する調査及びモニタリング調査を行います。
- ウミガメ類の繁殖や環境影響調査、回遊経路調査研究・技術開発を行います。
- 鯨類やジュゴン等の生息調査、行動モニタリング調査研究・技術開発を行います。
- ジンベエザメやマンタ等の有用展示動物の育成繁殖に関する調査研究・技術開発を行います。

3. 公園機能向上に関する調査研究・技術開発

- 国内外の先進的な公園管理及び展示手法に関する調査研究・技術開発を行います。
- 大規模公園の管理運営に関する評価指標・基準の策定に関する調査研究を行います。

事業内容／普及啓発事業

1. 公衆研究助成事業

- 総合研究センターの目的を達成するため、同様の研究に取り組む団体・個人へ助成を行います。

2. 人材育成事業

- 地域緑化、環境学習活動等を推進するリーダー及び地域自然環境ガイド等の育成を行います。

3. 地域連携事業

- 自然環境保全や風景、伝統的な暮らしや文化を発信します。

4. 図書・機関誌の発行

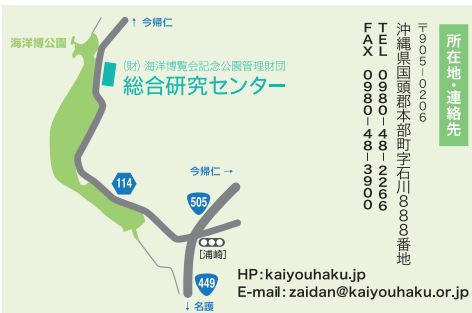
- 総合研究センターの成果を整理、収録した研究年報を発行し、その成果を広く発信します。

5. 国際交流事業

- 国内外の大学、博物館、水族館、植物園とのネットワークを強化し、情報発信、交流事業を推進します。

6. 講習会等の開催

- 体験学習、シンポジウム、講習会、講演会、教室等を開催します。



●公園全体で遊ぶ

海洋博公園サマーフェスティバル2009

県内最大約1万発の花火がダイナミックに夏の夜空を彩ります。みんなで遊べるピーチアトラクションや人気アーティストによるサンセットコンサートも見逃せません。

●7月18日(土) 14:00～22:00

●お問い合わせ/業務課 TEL.0980-48-2741

場所 エメラルドビーチ 無料



夏休みカヌー体験

エメラルドグリーンの海をカヌーで散策する人気イベントです。

※当日受付 8月8日(土)は美ら海体験まつり内で実施

●7月25日(土)～8月30日(日)期間中の土・日 10:00～17:00(計11回実施)

●お問い合わせ/業務課 TEL.0980-48-2741

場所 エメラルドビーチ 無料

キッズウィンドサーフィン体験

風を受けて海面を滑るマリントレーニングをお楽しみください。

●8月1日(土)・2日(日)・15日(土)・16日(日)(計4回実施)

●お問い合わせ/業務課 TEL.0980-48-2741

場所 エメラルドビーチ 無料

美ら海体験まつり

追いこみ漁体験やイノエ探検、身近な海の危険生物展など、「美ら海」をまるごと満喫できる大人気イベントです。

※当日受付

●8月8日(土) 10:00～16:00

●お問い合わせ/業務課 TEL.0980-48-2741

場所 エメラルドビーチ 無料

●生き物とふれあう

ウミガメ展

ウミガメの生態やウミガメを取り巻く環境の変化などをパネルや標本などで解説します。

●7月1日(水)～8月31日(月) 8:30～19:00

●お問い合わせ/海獣課 TEL.0980-48-2748

場所 ウミガメ館 無料

深海生物の写真展

世界各地の深海の生き物などの様子や、深海調査について写真で紹介いたします。

●7月4日(土)～7月12日(日) 9:00～20:00

●お問い合わせ/魚類課 TEL.0980-48-2742

場所 水族館4F イベントホール 無料

世界初マンタの赤ちゃん誕生! ～世界最大の巨エイ マンタ展～

※飼育下におけるマンタの出産

●7月25日(土)～8月22日(土) 9:00～20:00

※8月22日(土)のみ～18:00まで

●お問い合わせ/魚類課 TEL.0980-48-2742

場所 水族館4F イベントホール 無料

夏休み マナティーしく体験

マナティーへのエサの準備、エサやりなどの飼育体験や、マナティーの体のしくみ、ジュゴンとの違いなどが学べます。

申込方法: 当日抽選(定員20名)

受付時間: 16:15～16:45 抽選: 16:46

受付場所: マナティー館前

参加条件: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

●8月1日(土)～8月30日(日)の土・日

17:00～17:45(計10回)

●お問い合わせ/海獣課 TEL.0980-48-2748



場所 マナティー館 無料

夏休み親子水族館学習会

水族館のバックヤードツアーや講演会を通して「生物の多様性」や「環境保護」について学び「自然」の素晴らしさと大切さを伝えます。

●8月23日(日)

◎水族館バックヤードツアー(13:50～14:40)

参加条件: 小学3年生～6年生とその保護者

申込方法: 来館による受付(7月31日(金)消印有効)

場所 水族館バックヤード 無料

◎講演会(15:30～16:30)

講演者: 白石康次郎(海洋冒険家)、水族館職員

場所 水族館イベントホール 無料

●お問い合わせ/水族館事業課 TEL.0980-48-3740

海洋博公園管理センター

●花と緑とふれあう

沖縄の絶滅危惧植物展

沖縄の絶滅危惧植物を多数展示します。植物園の植物保護への取り組みなども紹介します。

●7月17日(金)～7月26日(日)

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

熱帯果実展

熱帯果樹及び果実を約100品種展示する他、熱帯果実の加工品展示、栽培方法や生産者をパネルで紹介いたします。

●7月18日(土)～8月31日(月) 8:30～19:00

●お問い合わせ/植物課 TEL.0980-48-3624

場所 熱帯ドリームセンター 入館料のみ

食虫植物展

ウツボカズラを中心に食虫植物を展示する他、捕虫方法や栽培方法についてパネルで紹介いたします。

●7月18日(土)～8月31日(月) 8:30～19:00

●お問い合わせ/植物課 TEL.0980-48-3624

場所 熱帯ドリームセンター 入館料のみ



押し花カード作り

木の枝や押し花などを利用したオリジナルのカードがつくれます。

●7月18日(土)～8月31日(月)

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

都市緑化技術講習会

都市にみどりを増やす・育てるための技術について紹介します。

●7月31日(金) 13:30～16:30

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

植物園で学ぼう

スタンプラリーを行いながら、植物のおもしろ情報を学ぼう!

●8月1日(土)～31日(月)

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

植物観察と標本作り教室

植物観察の基本や植物の標本作りを楽しむ学習します。

定員: 25組50名

※保険料・材料費が必要となります。

●8月2日(日)

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 有料



花のお話と絵本作り教室

花や植物についてわかりやすく解説、それらを題材にした絵本作りの実技指導を行います。

参加費: 500円(1組あたり、材料費、保険費用等含む)

定員: 40組80名

●8月23日(日) 10:00～17:00

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL.0980-48-3782

場所 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園 有料

美ら島・美ら海子ども工作室②「エコクラフトを作って遊ぶ」

紙器、プラスチック容器、ビニールシートや新聞紙など使用済みの廃棄物を用いた玩具作りと遊びを行い、科学の面白さに目覚め、科学的思考の楽しさを体験します。

●7月11日(土) 13:00～15:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 親子20名 無料

美ら海自然教室③④⑤⑧「ウミガメ講演会」

沖縄本島におけるウミガメストラディンク状況や、産卵状況についての講演会を行います。

●7月12日(日) 15:00～15:40

●7月26日(日) 15:00～15:40

●8月 9日(日) 15:00～15:40

●8月23日(日) 15:00～15:40

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 70名 無料



美ら海自然教室⑥「海藻と海草」

海藻と海草のちがいが、海草藻場が生態系の中で果たしている役割について学習します。また、沖縄の海藻・海草や、海草藻場で暮らす生き物についても解説します。

●8月16日(日) 14:00～15:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 20名 無料

美ら海自然教室⑦「海岸観察」

サンゴ礁に棲む様々な生き物たちを観察し、その形や興味深い行動等について自然観察を行います。本部町備瀬区海岸にて実施予定。

●8月23日(日) 13:00～15:00

場所 本部町備瀬区海岸(予定) 定員 親子20名 無料

【お問い合わせ】総合研究センター普及開発課 TEL 0980-48-2266

※各イベントの申込みは、実施日の1ヶ月前より開始いたします。

※イベント実施内容に変更になる場合がございます。最新情報や詳細はHP(kaiyohaku.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。

首里城公園「図画・フォトコンテスト」

首里城公園では、「魅力溢れる首里城公園」をテーマに図画・フォトの作品を募集します。夏休みを利用して、家族やサークル仲間、お友達と首里城に訪れて、あなたの感じた「首里城の魅力」を作品にして応募してください。

テーマ 魅力溢れる首里城公園

例: 首里城公園の施設(正殿、守礼門、城壁、円覚寺、龍潭亭)、風景、人々、公園を観察して感じたことなど。

対象作品 平成20年10月1日(水)～平成21年9月15日(火)の期間中に撮影した写真、あるいは描いた図画

応募資格及び各部門

図画(小・中・高・一般部門) フォト(中・高・一般部門)

作品募集期間

7月15日(水)～9月15日(火)



平成20年度図画・フォトコンテスト受賞者

企画展「江戸時代の琉球～江戸上り 琉球人使節がやってきた!～」

薩摩及び日本と琉球の関係を示す資料、江戸上り行列図、江戸上りに参加した琉球人の書翰、絵画資料を展示して江戸時代の琉球と日本の交流を紹介します。

●7月3日(金)～10月8日(木)

●場所: 首里城公園 南殿2F特別展示会(有料区域内)



資料名: 江戸上り行列図(琉球入朝図引)

総合研究センター

美ら海自然教室⑨「深海魚」

深海についての情報を学び、沖縄の深海について理解を深めます。講演後、水族館にある圧力水槽やROV(遠隔操作探査機)の見学を行います。

●8月30日(日) 13:00～16:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 40名 無料

美ら海自然教室⑩「鯨類」

沖縄近海に生息する鯨類を中心に、分類、形態、生態、生理等の生物学的解説と標本を活用した学習会を行います。

●9月 6日(日) 13:00～15:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 30名 無料

美ら海自然教室②「沖縄の淡水生物」

沖縄の淡水生物(メダカ、テラピア、グッピー等)を中心に、その貴重性と外来種等について、問題点と自分たちに何が出来たかを考える場とします。名護市源河川にて実施予定。

●9月20日(日) 13:00～14:00

場所 名護市源河川(予定) 定員 親子20名 無料

美ら島・美ら海子ども工作室③「動物玩具ーサンゴと貝殻等のおもちゃを作って遊ぶ」

島や島の周りのサンゴ礁に棲む様々な生き物たちを主とした自然物を活用して、多様な玩具作りを行い、伝統的な自然物の活用方法の体得や創造性を養います。

●9月26日(土) 13:00～15:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 親子20名 無料

首里城公園管理センター

■首里城の「朱」を守るために

首里城公園は、1992年に開園して以来、17周年を迎えます。現在、首里城のイメージカラーとなっている「朱」色を守るために漆の塗り直しが行われております。

首里城の「朱」を次の世代へ引き継ぎ守るため、事業へのご理解、ご協力をお願いいたします。(この事業は、国営沖縄記念公園事業で実施しています。)

※詳細は、首里城公園のホームページ

<http://oki-park.jp>

にてご確認ください。



■「書院・鎖之間庭園」国の名勝指定へ答申

首里城公園にて、皆様にご鑑賞

いただいている「書院・鎖之間庭園」

がこの度、国の文化審議会により、

国の名勝指定へ答申されました。

書院は往時、国王が日常の政務

を行った部屋で、鎖之間は王子な

どの控え場所で役人を引き懸談する

場所でした。



【お問い合わせ】首里城公園管理センター TEL 098-886-2020

●無料入館日 ●7/20(月・祝)は「国土交通DAY」のため熱帯ドリームセンター・海洋文化館が入館無料になります。

※イベント実施内容に変更になる場合がございます。最新情報や詳細はHP(kaiyohaku.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。